

平成 26 年 3 月 15 日  
東洋文化研究所 柳本伊左雄

## 第 16 回ラオス仏像修復プロジェクト報告書

1. 期間  
水晶彫刻招聘研修：2014 年 1 月 26 日～同年 2 月 11 日  
ラオス世界遺産修復プロジェクト：2014 年 2 月 15 日～同年 3 月 7 日
2. 場所  
ラオス人民民主共和国ルアンパバン県世界遺産地域内
3. 人員  
日本人スタッフ 9 名  
ラオス人スタッフ 13 名
4. 目的
  - ・身延山大学、ラオス交流 15 周年記念法要の開催
  - ・世界遺産地域全 35 ヶ寺の仏像現状調査
  - ・現地美術大学及び学校講師への技術講習
  - ・ラオス仏像修復
  - ・ラオス顔料調査
  - ・工芸学校電動工具整備（草の根文化無償による機材）
  - ・日本へのラオス人スタッフ招聘及び水晶彫刻研修
  - ・エメラルドブッダプロジェクトに関する打ち合わせ
5. 成果

### ◆15 周年記念法要の開催

日本、ラオス両国の読経（ラオス 63 名、日本 17 名の僧侶による）  
主賓一岸野博之在ラオス特命全権大使  
ブンサノン情報文化観光省美術工芸局長



集合写真

## 法要風景



ラオス人僧侶による読経



日本人僧侶による読経



日本人僧侶の読経に合わせて合掌する現地の人々



岸野博之氏（前）とブンサノン氏（奥）

### ～ラオス交流 15 周年記念法要の開催～

2月17日 ヴィスナラート寺院にて日本人僧侶17名、ラオス人僧侶63名によるラオス交流15周年記念法要を開催致しました。

開会式にて、岸野博之在ラオス特命全権大使、情報文化観光省美術工芸局長ブンサノン氏、その他両国有縁の方々による祝辞の言葉を頂きました。

式典は日本、ラオス両国による法要に移り、ラオス人僧侶（クバー）によるラオス式法要が約1時間続いた後、日本側僧侶による日本式法要が執り行われました。

両国共に法要の進行方法が全く異なる中、日本人僧侶による読経中、無意識的に手を合わせ合掌し祈りを捧げ始めるルアンパバン現地の人々の姿から、国は異なるが両国共に仏教文化が本来持つ信仰と祈りの力そのものに差異はないということを強く感じさせられました。また、国としても貴重な国交の場となり、ラオス仏像修復プロジェクトの重要性を再認識させられる式典となりました。

◆美術大学及び学校講師 6 名への技術講習



柳本教授によるラオス人講師への指導



王宮博物館園内 修復所風景

◆35 カ寺仏像個体数及び設置状況再調査

ワットシェンメンにおいて 12 体の仏像が盗難

◆ラオス仏像修復

今年度事業内修復完了仏

【鑄造仏】

ポンサアード寺院 No.23, No.24  
 ヴィスンナラート寺院 No.97  
 シェンメン寺院  
 No.25, No.88, No.108, No.109  
 計 7 体

【木彫仏】

ヴィスンナラート寺院 No.7, No.28  
 シェントーン寺院 僧坊内安置仏, No.91  
 計 4 体

【鑄造仏修復例】

ポンサアード寺院 No.23

【木彫仏修復例】

ヴィスンナラート寺院 No.78



修復前



修復後



修復前



修復後

◆ラオス顔料調査

ペオ村への石の採集



採集された赤石（ディンハーン）



色土採集の様子

◆エメラルドブツダプロジェクトに関する打ち合わせ

ラオス情報観光省工芸局長ブンサノン氏との打ち合わせ（協議中）

◆水晶彫刻招聘研修（日本国内で同年1月26日～2月11日に実施）



パイワン氏研修風景（河野工房）



研修期間内に制作したブツダ像（パイワン作）